

指導案

1. 単元名 「 「できること」を紹介しよう 」(第6学年)

2. 単元設定の理由

- 本学級の児童は、1年生の時から、同じGTと一緒に英語活動に親しんできており、英語に対する苦手意識はないものの、学年の雰囲気として、回りの様子を気にする児童が多く、積極的に活動する子が少ない。アンケートの結果を見ると、英語がとても好き、好きという児童が90%を超え、好きではないと感じている児童は少ないが、「上手に英語を話すことができない。」「英語の意味がよくわからない。」などという理由が多い。英語で話している内容を完全に理解しようとしていることから生じる苦手意識である。

第1単元「アルファベットで遊ぼう」(GT:1時間)では、アルファベットカードを使ってカルタ取りを行い、アルファベットに興味をもつ子が増え、第2単元「いろいろな文字があることを知ろう」(GT:1時間)では、動物の言い方や1~100までの数の言い方に親しむ活動を行った。

第3単元「友達の誕生日を知ろう」(GT:1時間)では、月や誕生日の言い方を知り、友達にインタビューする活動を行い、多くの友達にインタビューすることができるようになってきた。外国語活動の中でも、友達にインタビューする活動では、初めは男女に分かれがちだったが、徐々に広くインタビューしていく様子を見ることができるようになってきた。また、ゲーム活動を取り入れることによって、ほとんどの児童が意欲的に取り組むことができている。

- 本単元では、「できる」「できない」という表現を使い、自己紹介ができるということを目指している。児童は、一人一人いろいろな面で違いがあり、「できること」と「できないこと」がある。そこで、この単元では、canを使って自分を表現するとともに、友達の発表を聞いて、改めてその友達のことを見直すきっかけとしたい。新たな視点で友達を見ることで、英語のコミュニケーション活動を楽しみながら、友達への理解を深めることができると考えられる。
- 指導にあたっては、まず、動物の「できること」や「できないこと」をヒントにしなが、どんな動物か当てる活動につなげ、「できる」という表現に親しませるようにする。さらに、担任とGTで「できること」と「できないこと」を尋ねあう様子を見せ、自分たちも「できること」を伝えたいという意欲をもたせる。

次に、友達どうして「できること」や「できないこと」を尋ね合う活動を行う。グループで尋ねることを一人一つ決め、そのことだけについて尋ねる。「できるかどうか」について尋ねる言い方とともに、尋ねられたときの答え方も知らせる。時間が来たら、グループで尋ねたことをもとに、誰が、「何ができるか」「何ができないか」を話し合う。その後、「誰でしょうクイズ」で、グループで協力して考えさせ、答えを考えさせる。

さらに、表現する活動では、ショー・アンド・テルで自分の「できること」や「できないこと」について、発表する活動を取り入れる。絵を提示したり、具体物を見せたりしながら発表するショー・アンド・テルの仕方を知らせるとともに、発表者は聞き手を意識した発表の体験をさせ、聞く方は、自分との違いを認めながら、友達を理解していくことを意識させたい。

3. 目標

- 「できること」を聞く活動を通して、GTや友達のもつ文化への興味・関心を高める。
(言語や文化に関する気付き)
- 積極的に友達に「できること」を尋ねたり、自分の「できること」や「できないこと」を紹介したりする。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- 「できる」「できない」という英語表現を使って尋ねたり、答えたりする。
(外国語への慣れ親しみ)

4. 単元構成の考え方

英語ノートの本単元の構成は、動物の「できること」「できないこと」から入り、最終的には自分の「できること」「できないこと」をみんなに知らせるという流れになっている。これは、誰でも「できること」もあれば「できないこと」もあるという、違いを認め合うという点から、異文化を受け入れる素地を養うことができ、また、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成という点から、コミュニケーション能力の素地を養うことができるという良さがある。

そこで、「出会う段階」では、第三者として聞くことができるような動物の「できること」から始まり、友達の「できること」「できないこと」をインタビューしていく活動に発展していく中で、自分のことをもっとみんなに知らせたいという意欲を連続してもたせ、「表現する段階」では、ショー・アンド・テルで聞き手を意識しながら自分が「できること」を発表する姿をねらっている。

5. 単元構成・評価規準（全4時間 ○は本時）

段階	時	ねらい	言	コ	慣	活動 / 評価規準	表現例
出会う	1	相手の話を積極的に聞き、相手のことを理解しようとする。	◎			活動名「できること「できないこと」を聞こう」 「クイズ What animal ? 」 評価規準 CDを聞きながら、can と can't の違いに気づき、クイズに答えようとしている。	What animal is this? Can you ~ ? Yes, I can. No, I can't. I can ~ .
	2	どのようなことができるか、ジェスチャーを使って、友達に尋ねたり、答えたりする。			◎	活動名「ジェスチャーインタビュー」 評価規準 相手に「できる」ことを質問したり、答えたりしようとしている。	Can you ~ ? Yes, I can. No, I can't. Play soccer 等
関わる	③	友達にどのようなことができるか尋ねたり、答えたりする。			◎	活動名「インタビューをしよう」 「誰でしょうクイズ」 評価規準 多くの友達に、あいさつをしたりアイコンタクトをしたりしながら、インタビューをしている。	Can you ~ ? Yes, I can. No, I can't. Play soccer 等
	4	自分が「できること」を発表したり、友達のよさを見つけようとする。			◎	活動名「ショー・アンド・テルをしよう」 評価規準 自分の「できること」や「できないこと」を意欲的に発表しようとしている。また、友達の発表を聞いて、友達のよさを見つけようとしている。	Hello. My name is ~. I can play ~ . But I can't play~. Thank you.

6 学年「できることを紹介しよう」

単元の評価基準

単元目標	1. 「できること」を聞く活動を通して，GT や友達のもつ文化への興味・関心を高める。 2. 積極的に友達に「できること」を尋ねたり，自分の「できること」や「できないこと」を紹介したりする。 3. 「できる」「できない」という英語表現を使って，尋ねたり，答えたりする。		
評価規準	○ 登場人物の話を積極的に聞き，「できること」「できないこと」を理解しようとする。 ○ 言語や，非言語を用いて，積極的にコミュニケーションを図ろうとする。 ○ “Can you～?”などの英語表現を使ってインタビューしている。		
観点	評価場面と方法	おおむね満足な姿（B）	※おおむね満足する姿に達しない場合の考えられる支援
言語や文化に関する気付き	【第1時】 登場人物の「できること」や「できないこと」を聞いている場面 (行動観察) (自己評価)	○ CD を聞きながら，can と can't の違いに気づき，クイズに答えようとしている。 ・「カバは泳げるから can だね。」	・クイズに正解するかどうかだけを気にしている。 ※ジェスチャーを交えて気付くような声かけをし，興味を喚起させる。
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	【第3時】 友達にできるかどうかを尋ねたり答えたりしている場面 (行動観察) (発表観察) (自己評価)	○ 多くの友達に，あいさつをしたりアイコンタクトをしたりしながら，インタビューをしている。 ・「全員にインタビューし，次のクイズに生かそう。」	・アイコンタクトをせず，カードだけを見てインタビューをしている。 ※担任が横に寄り添って一緒に言う。
	【第4時】 「ショー・アンド・テル」をしている場面 (行動観察) (発表観察) (作品観察) (自己評価)	○ 自分の「できること」や「できないこと」を意欲的に発表しようとしている。また，友達の発表を聞いて友達のよさを見つけようとしている。 ・「自分のことを知ってもらいたい。」 ・「友達がこんなことができたなんて，知らなかった。」	・自分が「できること」を意欲的に見つけようとしていない。 ※担任と一緒に「できること」を考える。 ・友達の「できること」や「できないこと」を聞いても，友達の良さに結び付けようとしていない。 ※友達の「できること」を担当と確認していく。
外国語への慣れ親しみ	【第2時】 ペアになって，できるかどうか尋ねたり，答えたりしている場面 (行動観察) (自己評価)	○ 相手に「できる」ことを質問したり，答えたりしようとしている。 ・“I can～.” “Can you～?”などの英語表現を使っている。	・みんなが英語表現を使っているも，一緒に言おうとしていない。 ※横に寄り添って一緒に言う。友達と一緒に言うように声をかける。

6. 本時

平成 22 年 11 月 24 日（水）

7. 本時の目標

- 友達にどのようなことができるか尋ねたり，答えたりする。

8. 本時指導の考え方

- 本時は，できるかどうかの言い方に興味をもち，友達とお互いにどんなことができるかを尋ねたり，答えたりすることをねらいとしている。前時までに，担任と GT と一緒に，「できること」を尋ねたり，答えたりしながら，質問の仕方に慣れてきている。また，ジェスチャーあてクイズで動作の言い方にも親しんでいる。そこで，本時は，友達どうしでできるかどうかを尋ね合う活動を通して，お互いの意外な面を知り，また，グループで尋ね合った後に話し合う活動で，協力し合うことや仲間意識，自己肯定感を高めていくとともに，コミュニケーションの楽しさを味わわせたい。さらに，インタビューの活動から自分自身の「できること」や「できないこと」をみんなに伝えたいという思いをもたせ，次時のショー・アンド・テルに向けての意欲を高めていきたい。

9. 本時の展開

過程	児童の活動	教師の支援 (担任・GT)	教材・評価場面
あいさつ (5)	1 あいさつをする。	Hello, everyone. How are you?	
ウォームアップ (10)	2 CD に合わせてチャンツを言う。	○ パートに分けてチャンツを言わせる。	・電子黒板
めあて確認 (2)	3 めあてを確かめる。	Today's aim is this.	
	友達に、「どんなことができるか」たずねよう。		
コミュニケーション活動 (20)	4 「できること」「できないこと」を尋ねる活動をする。 (1) 担任 と GT のデモンストレーションを見る。 (2) 自分の「できること」と「できないこと」をカードに記入し、グループでインタビューの仕方を練習する。 (3) 友達にインタビューする。 (4) 「誰でしょうクイズ」をする。	○ インタビューの仕方のデモンストレーションを見せる。 ・アイコンタクトを意識して、ジェスチャーを交えながらインタビューすることを明確にする。 Can you ~? Yes, I can. / No, I can't. ○ グループで、自分がインタビューすることを決めさせ、その練習する様子を見ていく。 ○ 担任は、活動が進まない児童と初めにペアになり、フレーズを繰り返して言わせる。 ○ 集めた友達の情報をもとに、話し合い誰のことであるか予想を立てさせる。	・インタビューシート ・前時の学習プリント ・ブラックボックス ・電子黒板 友達にできるかどうかを尋ねたり答えたりしている場面 ○ 多くの友達に、あいさつをしたりアイコンタクトをしたりしながら、インタビューをしている。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
振り返り (5)	5 振り返りカードに記入し、感想を交流する。		・振り返りカード
	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの友達にインタビューしましたか。 ・「できますか」の言い方を使いましたか。 		
	6 次時の予告をする。	○ GT がデモンストレーションをし、次時は、自分のことを発表することを伝える。	
あいさつ (3)	7 あいさつをする。	That's all for today. You are welcome.	

授業の改善ポイントと修正指導演

●第3時目標 (3/4)

○ 友達とお互いに、どんなことができるかを尋ねたり、答えたりする。

改善ポイント
 ・「誰でしょうクイズ」で、各班が意欲をもつために、すべての班の答えを聞いてから、答えを言うようにした。
 ・振り返る項目は、わかりやすくするために、1つにした。

●展開

過程	児童の活動	教師の支援 (担任・GT)	教材・評価場面
あいさつ (5)	1 あいさつをする。	Hello, everyone. How are you?	
ウォームアップ (10)	2 CD に合わせてチャンツを言う。	○ パートに分けてチャンツを言わせる。	・電子黒板
めあて確認 (2)	3 めあてを確かめる。	Today's aim is this.	
	友達に、「どんなことができるか」たずねよう。		
コミュニケーション活動 (20)	4 「できること」「できないこと」を尋ねる活動をする。 (1) 担任 と GT のデモンストレーションを見る。 (2) 自分の「できること」と「できないこと」をカードに記入し、グループでインタビューの仕方を練習する。 (3) 友達にインタビューする。 (4) 「誰でしょうクイズ」をする。	○ インタビューの仕方のデモンストレーションを見せる。 ○ アイコンタクトを意識して、ジェスチャーを交えながらインタビューすることを明確にする。 Can you ~? Yes, I can. / No, I can't. ○ グループで、自分がインタビューすることを決めさせ、その練習する様子を見ていく。 ○ 担任は、活動が進まない児童と初めにペアになりフレーズを繰り返して言わせる。 ○ 集めた友達の情報をもとに話し合い、誰のことであるか予想を立てさせる。 ○ <u>全ての班の答えを聞いてから答えを言うようにする。</u>	・ブラックボックス 友達にできるかどうかを尋ねたり答えたりしている場面 ○ 多くの友達に、あいさつをしたりアイコンタクトをしたりしながら、インタビューをしている。 (コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
振り返り (5)	5 振り返りカードに記入し、感想を交流する。 6 次時の予告をする。	○ GT がデモンストレーションをし、次時は、自分のことを発表することを伝える。	・振り返りカード
あいさつ (3)	7 あいさつをする。	That's all for today. You are welcome.	